

愛寿会 たより

秋号
第 256 号
令和 6 年
8 月 発行



令和六年七月二十六日、仁生園夏まつりが開催されました

仁生園夏まつり 開催報告

令和六年七月二十六日、仁生園にて夏まつりを開催いたしました。ここ数年、コロナウイルス感染症の影響で、従来の夕方からの開催が叶わず、何度も協議を重ねた結果、今回遂に実現することができました。

今年は、参加されるご家族の人数制限が昨年の二名から三名へと緩和され、年齢制限も撤廃されました。これにより、お子様も参加できるようになり、利用者様も久しぶりにご家族と直接お会いすることができ、大変楽しそうにされていました。

当日は開催時刻直前に雨がぱらつき、外での開催が危ぶまれましたが、利用者様や職員のこれまでの頑張りに応えるかのように天気が回復しました。理事長の挨拶で開会となり、上村英司北杜市長、当法人理事である浅川力三山梨県議会議員、福井俊克北杜市議会議長様方からもご挨拶を頂きました。

アトラクションの最初は「淵の音太鼓」の皆様による和太鼓の披露でした。会場に響き渡る太鼓の音は圧巻で、一気にお祭りムードが高まりました。「甲斐の国小粋」の皆様には元気なよさこいを踊っていたくださり、利用者様も手拍子を送り、一緒に体を動かしながら元気をもらっていました。



続いて、松野康雄様のギター演奏があり、懐かしく優しい歌声に会場は魅了されました。バルーンアートも担当してくださった矢澤節子様とのセッションでは、矢澤様の美しい歌声を引き立てる素晴らしい演奏が披露されました。さらに、宮田清子職員による力強く活き活きとした歌声の披露があり、デイサービスの職員の合の手で笑いを誘う場面もありました。

最後はネパール実習生のタマンさん、ネギさん、ビニタさんによるダンスが披露されました。ネパールの曲に合わせた迫力あるダンスは、彼女たちの魅力を存分に伝えていました。

こうして無事に仁生園夏まつりを終えることができましたのは、仁生園スタッフの多大な協力、日清医療食品㈱の職員の皆様、アトラクションに参加いただいた各団体の皆様、そして多くの利用者様とご家族の皆様のご理解とご協力があつたからこそです。ご尽力くださった皆様により感謝申し上げます。



令和六年五月二十三日 第二百三十五回理事会が開催されました

令和五年度の社会福祉法人愛寿会事業報告及び決算報告がなされ、承認されました。

主な内容についてお知らせします。

(一) 事業報告

一・外国人介護技能実習生・特定技能者用宿舍の建設

令和五年度新たにネパールからの技能実習生及び特定技能職員の宿舍として活用するため愛寿会の敷地内に三棟目の職員寮「絆Ⅲ」を建設

二・グループホーム「こあらま」の開設

長い間高齢者生活支援ハウスとして利用してきた「こあらま」をグループホーム「こあらま」として全面改修し、令和五年五月二十五日に施設の開所式を挙行了した。新たに八名のスタッフを配置し、六月から入所が始まり七月末には満床となりました。

三・福祉施設・医療機関等物価高騰対策支援交付金

昨今の物価高騰により光熱費、食材費において負担が増え、運営が厳しさを増す中で、事業の質及び持続的な運営を確保するため、山梨県から福祉施設等に各事業所に対し、交付金がありました。

四・福祉施設等物価高騰対策賃上げ支援金の助成について

公定価格により収入が算定される福祉施設等では、物価高騰分を利用者に転嫁できず、相対的賃金格差による離職傾向から人材不足に拍車がかかっていることから、安定的な運営の確保を図るため、公定価格改定までの間の、職員の賃上げに必要な原資に助成がありました。

五・コロナ施設内発生

新型コロナウイルスについて、令和五年五月に感染症法上、季節性インフルエンザと同じ「五類」への引き下げが行われた。ただし、令和五年度においては、入所者、利用者、職員及びその家族においては新型コロナウイルス、インフルエンザによる感染が少数ではあるが確認される状況もあり、感染症に対する対応マニュアルを再確認し、再びクラスターが発生しないよう予防意識の高揚、予防対策の充実、発症後の対策に徹底を図っております。

六・夏祭りの開催について

○仁生園夏まつり
気候温暖化での猛暑及びコロナ感染状況を考慮する中、九月二十二日に以前屋外で開催していた規模で、来園されるご家族の人数を制限させていただきました。太鼓や舞踊などのアトラクションや屋台も復活し、入所者、利用者には、ご家族との楽しい時間を過ごしていただきました。

七・仁生園花火大会の実施

猛暑の影響から、過ごしやすい時期での開催を考慮し、十月二十九日の夕方から、仁生園独自の花火大会を実施した。職員が工夫しながら、入所者に喜んでいただくよう努めました。

八・苦情解決相談委員会開催

愛寿会が運営するすべての事業の利用者に関する苦情に対し、適切な対応を図るための第三者委員からなる委員会を開催しました。なお、令和五年度におきましても苦情は無く、軽微な相談が一件ありました。今後も苦情のないサービス、支援に努めます。

九・総合防災訓練の実施

○仁生園防災訓練（六月）
消火器・消火栓を用いた消火訓練を実施しました。

○仁生園第二回防災訓練（十月）

非常時での使い捨て食器を使用する際の配膳、下膳訓練炊き出し訓練として、炊飯及びおにぎりづくりを実施しました。

○第二仁生園防災訓練

炊き出し訓練非常時の保存食及び保存水を使って昼食の提供しました。

十・感染症研修会の実施

厚生労働省感染症研修を一月二十二日に笛吹中央病院安全管理部感染管理認定看護師を講師に、感染症研修が開催され、会議室での講義と各フロアーを回り、感染対策についてご指導を頂きました。

十一・新春餅つき大会の開催

令和六年一月四日入所者、利用者、職員総勢五十名が参加して初めて開催した。理事長をはじめ、デイサービスの利用者、外国人スタッフも杵を持ち、多くの方が日本の伝統行事の餅つきを楽しんだ。その後小豆の餅など職員で作作り、フロアーで美味しく召し上がっていただきました。



・第二回定時評議員会
 (一) 事業報告及び決算報告
 第二百三十五回理事会で承認されたことを受
 け、令和五年度社会福祉法人愛寿会事業報告及
 び決算報告を行い、評議員会においても承認さ
 れました。

令和六年六月十三日
第二回定時評議員会が開催されました

- 報告事項
- ① 令和六年能登半島地震に係る義援金の送付につ
いて
 - ② ICT機能の充実のための機器の導入(補助
金活用)について
 - (三) 障害者支援施設第二仁生園運営規程の一部改
正について
 - (四) 積立金の取崩しについて

- (二) 決算報告
 令和五年度の決算は、コロナ禍による利用
 率の低下、物価の高騰などにより財政的に厳
 しい状況にある事を説明し承認されました。
 増収及び経費削減など財政運営に注力し健全
 経営を実施してまいります。尚、法令等に基
 づき、当法人が設けるインターネットホーム
 ページにおいても情報公開を実施しておりま
 す。
- 十三、 研究集録の取り纏め
 令和五年度は仁生園、第二仁生園の研究
 委員会が、一年間を通じて安定的に活動が
 出来なかったことから、研究紀要として発
 行を断念いたしました。
- 十二、 介護福祉士資格取得支援
 介護福祉士資格取得支援につきまして
 は、第二仁生園で二名が資格を取得できま
 した。

事業活動計算書

(自:令和 5年 4月 1日 至:令和 6年 3月31日)

	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動収益計(1)	888,960,206	842,173,879	46,786,327
サービス活動費用計(2)	989,498,021	942,007,708	47,490,313
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 100,537,815	△ 99,833,829	△ 703,986
サービス活動外収益計(4)	8,717,504	27,112,659	△ 18,395,155
サービス活動外費用計(5)	3,570,822	3,828,674	△ 257,852
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	5,146,682	23,283,985	△ 18,137,303
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 95,391,133	△ 76,549,844	△ 18,841,289
特別収益計(8)	1,738,411	7,311,987	△ 5,573,576
特別費用計(9)	196,885	6,945,106	△ 6,748,221
特別増減差額(10)=(8)-(9)	1,541,526	366,881	1,174,645
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 93,849,607	△ 76,182,963	△ 17,666,644
前期繰越活動増減差額(12)	656,291,525	572,474,488	83,817,037
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	562,441,918	496,291,525	66,150,393
その他の積立金取崩額(15)	280,000,000	580,000,000	△ 300,000,000
その他の積立金積立額(16)	210,000,000	400,000,000	△ 190,000,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(15)-(16)	612,441,918	656,291,525	△ 43,849,607

資金収支計算書

(自:令和 5年 4月 1日 至:令和 6年 3月31日)

勘定科目	決算
事業活動収入計(1)	897,661,930
事業活動支出計(2)	947,224,595
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 49,562,665
施設整備等収入計(4)	1,561,000
施設整備等支出計(5)	58,676,845
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 57,115,845
その他の活動収入計(7)	264,485,671
その他の活動支出計(8)	217,634,690
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	46,850,981
予備費支出(10)	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)	△ 59,827,529
前期末支払資金残高(12)	295,396,152
当期末支払資金残高(11)+(12)	235,568,623

貸借対照表

(令和6年 3月31日現在)

(単位:円)

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増 減	科目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	456,834,186	466,391,209	△ 9,557,023	流動負債	233,394,947	181,971,461	51,423,486
固定資産	1,457,761,181	1,523,881,183	△ 66,120,002	固定負債	62,765,021	65,922,062	△ 3,157,041
基本財産	983,761,308	1,032,705,193	△ 48,943,885	負債の部合計	296,159,968	247,893,523	48,266,445
その他の固定資産	473,999,873	491,175,990	△ 17,176,117	純資産の部			
				基本金	413,237,802	413,237,802	0
				国庫補助金等特別積立金	382,755,679	412,849,542	△ 30,093,863
				その他の積立金	210,000,000	280,000,000	△ 50,000,000
				次期繰越活動増減差額	612,441,918	656,291,525	△ 43,849,607
				(うち当期活動増減差額)	△ 93,849,607	△ 76,182,963	△ 17,666,644
				純資産の部合計	1,618,435,399	1,742,378,869	△ 123,943,470
資産の部合計	1,914,595,367	1,990,272,392	△ 75,677,025	負債及び純資産の部合計	1,914,595,367	1,990,272,392	△ 75,677,025

令和六年度第一回総合防災訓練実施報告



令和六年度 第一回総合防災訓練実施報告

令和六年六月二十五日、当施設において第一回総合防災訓練を実施しました。防災訓練は、災害発生時に適切な行動をとるための重要な取り組みです。近年、地震や豪雨などの災害が頻発しており、その対策がますます重要となっております。

消火訓練

まず、水消火器と屋内消火栓を使用した消火訓練を行いました。火災発生時には、初期消火が火災拡大の被害を抑える重要な役割を果たします。消火器の基本的な使用方法を説明した後、実際の消火器との違いを体験していただきました。屋内消火栓の訓練では、水圧の強さに驚かれる方もいましたが、実際の水圧を体験することで、力の弱い職員でも安全に操作できるように対策を講じました。初期消火の三原則である「早く知らせる」「早く消す」「早く逃げる」を念頭に置き、万が一の時でも慌てずに対応できるように努めています。

避難誘導訓練

次に、レスキューベランダを使用した避難誘導訓練を行いました。これは、上層階にいる入所・利用者様を安全に避難させるための設備です。多くの職員が初めて使用の中で、新たな課題も見つかりましたが、実際に操作方法を学ぶ良い機会となりました。

課題と今後の取り組み

最優先されるべきは「人の命」です。入所・利用



様全員が安全に避難できる方法を模索し、参加した職員からの意見や反省を元に、何度でも同じ訓練を実施していく予定です。また、避難だけでなく、施設の備蓄品を適切に使用することも大切です。自然災害が発生した際には、サービスの安定・継続的な提供が重要であるため、介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）の策定が義務付けられています。緊急時に備えることの重要性を再認識しました。

災害時の心構え

災害時にはリスクや危険を過少評価しがちで、楽観的な見方を維持しようとする思考傾向があります。最悪の事態を避けるためにも、災害時にはどの程度の被害が及ぶかを意識し、想像しながら必要な行動をとれるように心がけることが重要です。

今後も、地域の皆様の安全を第一に考え、防災対策に取り組んでまいります。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



小荒間地区の防災を考える会

ご承知かとも思いますが、小荒間地区は、その災害史によると、台風・集中豪雨により、明治、昭和と大きな土砂災害が起き、甚大な被害があったと記録されており、地元では、その改善に向けての要望活動を続けてきたが、令和六年二月に県から前向きな回答があったと伺っております。

こうした中、「小荒間地区の防災を考える会」は令和六年三月に、地域の住民や法人が協力し、小荒間地区の古杣川、高川の防災・減災対策を研究・検討・提案する任意の組織として設立され、当法人でも、常務理事・園長である竹中が理事として参加しながら、地域の一員として積極的に活動していくこととしました。

その活動として、令和六年七月に、北杜市役





所職員、小荒間地区区長、防災を考える会の会員など、総勢十五名で、林道古杣川終点付近など数カ所の現地調査を実施し、土砂災害の危険な状況を実感したところです。なお、この調査は、八月一日の八ヶ岳ジャーナル新聞（地域新聞）にも会の活動として取り上げられるなど、地域の理解と支援が広がっていく事を期待するところです。

最終目標は、高川、古杣川の砂防堰堤を整備し、一日でも早く土砂災害特別警戒区域の指定解除を実現することです。近年、南海トラフ地震や各種の災害が心配される中、地域の防災対策は一層重要性を増してきておりますので、当法人としては、これらの活動を通じて、地域の安全と持続可能な発展に貢献する所存ですので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



北杜市民生委員児童委員協議会様にご訪問いただきました

令和六年七月二日、北杜市民生委員児童委員協議会 長坂地区民生児童委員の高齢者福祉部会の委員の皆様にご訪問いただきました。その際、北杜市長坂町地区の民生委員児童委員協議会の皆様より、ご利用者様のために貴重なタオル類をご寄贈いただきました。心より感謝申し上げます。

また、当会常務理事 統括施設長 園長の竹中により、社会福祉法人愛寿会と仁生園の開設の経緯と歴史、現状の地域福祉の課題について研修をさせていただきました。委員の皆様からは地域福祉の祖として更なる発展と進化を続けるよう激励をいただきました。

当園といたしましても、先人の作り上げた法人の歴史の名に恥じぬよう、これからも地域の皆様のために尽力してまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



仁生園介護相談センター
管理者の主任介護支援専門員
坂本七百重も北杜市民生委員
として参加しております。

北杜市民生委員児童委員協議会の活動について
北杜市の民生委員児童委員協議会は、地域住民の生活支援や相談役として重要な役割を果たされています。委員の皆様は厚生労働大臣から委嘱を受けて活動し、地域の人々が直面するさまざまな問題に対応されています。

具体的な活動内容は以下の通りです。

- 生活困窮者の支援…経済的な困難を抱える家庭への支援や相談。
- 心身の健康に関する相談…心理的な不安や健康問題に関する相談に対応。
- 高齢者の介護支援…高齢者の介護に関する相談やサポートを提供。
- 子どもの養育に関する相談…子育てに関する悩みや問題へのアドバイスやサポート。
- 地域の見守り活動…社会的孤立を防ぐための見守り活動を実施。
- 災害時の支援体制の構築…高齢者や障害者などの災害時要援護者の支援。
- 一人暮らし老人への配食サービス等

これらの活動は、地域住民の生活の質を向上させるために不可欠です。民生委員・児童委員の皆様は秘密を厳守し、相談者のプライバシーを守りながら支援を行っています。委員の活動は地域福祉の推進に大きく寄与しています。



特別養護老人ホーム仁生園

仁生園のイベント報告

野点開催

仁生園の一号館、二号館で別日に野点が行われました。夏の強い日差しが入る前の時期で、利用者様には丁度良い気候の中、暖かさを感じる日差しを浴びながら各班から楽しみに参加されました。

今回、着物を綺麗に着飾りお手伝いをしてくれたのは、ネパールの技能実習生達でした。練り切を用意して、職員が点てたお茶を提供すると「美味しい」との声が聞かれました。雰囲気も味もいながら談笑する方や、お茶やお菓子を楽しむ方など、様々な楽しみ方が見られました。白や桃色、黄色の色鮮やかな着物は利用者様方の目にも美しく映り、「綺麗だね」「かわいいね」といった声がよく耳に入りました。コロナ禍の影響で他班との交流は少なくなっていますが、利用者様や実習生にとって貴重な時間となりました。



各班では、七夕飾りやお楽しみ会など工夫を凝らし、利用者様に少しでも刺激を与え、笑顔を増やそうと頑張ってくれています。

夏祭りの開催

夏には、仁生園最大のイベントである夏祭りが控えています。多くの利用者様が楽しみにしており、ポスターを覗き込んだり、音頭の練習をしたりと、準備に力を入れていました。

今年の夏祭りは、人数制限や飲食の制限がある中でも、ご家族と交流できる数少ない機会でもあり利用者様もこの日を心待ちにしていました。七月二十六日、夏祭り当日には、胸を躍らせる利用者様、天候を心配する職員、慌ただしく動くスタッフなど様々な感情が交錯する中、会場はたくさん笑顔で溢れ、大いに盛り上がりを見せていました。

こうして無事に野点と夏祭りを終えることができましたのは、仁生園スタッフや実習生の多大な協力、各団体の皆様、そして多くの利用者様の多大な協力、ご家族のご理解とご協力があつたからこそです。ご尽力くださった皆様に心より感謝申し上げます。



仁生園夏祭り 二号館

今年の夏祭りは、久しぶりの大規模開催となりました。入所者の皆様やご家族様には、マスクの着用や観覧、飲食の制限などをお願いする形となりましたが、太鼓演奏やよさこい、ギター演奏、職員によるダンスや歌など、多彩なアトラクションを楽しんでいただけたと思います。

夏祭り開始前には雨が降り、屋外開催が危ぶまれましたが、幸運にも天気は回復し、予定通り行うことができました。夏祭りの締めくくりとなる花火は非常に見応えがありました。毎年、男性職員が準備から行い、皆様に楽しんでいただけるよう工夫を重ねております。二号館の入所者様も大変喜ばれていました。

今年の夏祭りでは、淵の音太鼓様による力強い演奏、松野様と矢澤様による昔懐かしい曲のギター演奏と歌、ネパールの実習生による若々しいダンス、そして宮田職員による歌と踊りが披露され、利用者の皆様に大変好評でした。よさこいは色鮮やかな衣装で、時に激しく、時に艶やかに乱舞し、観客を魅了しました。さらに、今年は夏祭りの様子をライブ配信し、会場に入りきれない利用者様も二号館フロアで映像をご覧になり、楽しむことができました。皆様にとって楽しいひと時を過ごしていただけたことと思います。



グループホーム やすらぎ



～ 夏祭りのやわらかく ～

コロナ禍以前の仁生園夏祭りとはほぼ同じ形で復活できたことに、私たち職員は久しぶりの感慨を覚えました。しかし、ふと入居者様に目を向けると、一番長く入居されている方でもコロナの制限が始まった後に入居された方でした。ご家族も夕方からの夏祭りは初めてで「どうしたらいいの」との質問から始まりました。



昨年の中のお祭りに参加されたご家族からは、昨年の暑さを考慮して即座に時間の検討を行っていただいたことに対して臨機応変な対応の早さをお褒めいただきました。しかし、ここ数年の温暖

化の影響で、夕方とはいえ、昔の涼しい夕方のイメージからはかけ離れた暑さに、多くのご家族が早めに来て居場所に苦労されていたように見受けられました。何度も経験していることですが、夕立との駆け引きのような心配も相変わらずで「仁生園夏祭り、復活！」と長く勤めている職員は感じたとします。

祭りに向けて、入居者様はレク体操の一環として「これから音頭」がかかると、鳴子を両手に持ってノリノリで練習を重ねました。祭り中の入居者様の反応は、普段のレクに参加されても途中で居室に戻られる方も、久しぶりの家族と一緒に過ごす時間を楽しんでいる方がほとんどでした。ご家族様も、途中で帰る予定を最後の

花火まで見届けていただいた方が多く、お帰りの際に準備の大変さと花火の見事さ、頑張りをほめていただけました。

感染症の再度の拡大の不安と猛暑の中、実行委員や厨房の職員さんには大変なご苦労をお願いしましたが、入所後疎遠になりがちなご家族様と入居者様の交流の起爆剤となり、職員もご家族様と触れ合う良い機会となったと思います。



グループホーム こあらま

～ こあらまの音頭 ～

こあらまでは、様々なレクリエーション活動を入居者様と一緒に取り組んでおります。牛乳パックを使って文字を用意し「これは私の名前だよ」「これで合ってる?」「お姉さんも一緒に!」と、

思い思いの言葉を作りながら、真剣な表情の方や笑顔の方もいらっしゃいました。また、別の日には職員が用意したピスタチオの殻に色を塗り、夏に合わせて制作したひまわりを模造紙の上に映か

せました。「きれいだね」「うまいじゃんね」と笑顔で語り合う入居者様の姿が見られ、ピスタチオを用意した職員もニコリしました。



～ 仁生園夏まつり ～

七月二十六日に、夏の風物詩である仁生園夏まつりが開催されました。入居者様は浴衣に着替え、髪には職員手作りの花飾りをあしらひ、ご家族様にも好評でした。突然の雨に「大丈夫かな?」と心配する声もありましたが、天気は仁生園の味方でした。曇り空を吹き飛ばすような太鼓の音色から始まり、入居者様とご家族の方が目一杯楽しめるプログラムが用意されました。

「これから音頭」は、毎日入居者様と一緒に練習に励み、時には職員が踊りを忘れて逆に教わることもありましたが、本番では、皆さん真剣なもので、練習の成果が発揮されました。花火では「すごいね。何色もあつてきれいね!」「おおくあんなに高いよ」と上を見上げて喜ぶ姿が印象的でした。ナイアガラの花火を最後に、夏まつりの幕が下りました。夏まつりが終わり、感想を伺うと「楽しかったよ」との声が多く聞かれ、職員一同嬉しい気持ちになりました。コロナ禍でまだまだ制限があるご時世ですが、ご家族様と一緒に素敵な夏のひと時を過ごして頂けたのではないのでしょうか。



仁生園デイサービスセンター

花の苗植え

五月二十八日に「花の小道」の吉田社長を講師にお迎えし、花の苗植えを行いました。吉田社長から、苗の根の部分は下の方をほぐしてから植える根が張りやすいと教えていただき、皆さん慎重に根をほぐして植えていました。花を植えたプランターは仁生園の入り口に飾られ、色鮮やかなマリーゴールドが毎朝、利用者様を出迎えてくれます。



朗読ボランティア

六月から月に二回、朗読ボランティアの会「ゆづっこ」さんが来園され、レクリエーションの時間に読み聞かせをしてくださっています。演劇さながらの上手な朗読を聞き、情景を頭に浮かべながら過ごす時間は、脳の活性化にもつながっており、次はどんなお話を聞かせてくださるのかと毎回頭楽しみにしています。



願いを込めて

七月七日は七夕ということで、「元気で過ごせませうように」「世界平和」「家族皆が健康で…」などに、それぞれの願いを短冊に書き、願いが叶うように祈りながら笹に飾りました。平和な毎日に感謝をしながら、一日一日を大切に過ごしていきたいですね。



中学生の福祉の職場体験

六月十三日、十四日の二日間、長坂中学校の生徒さん二名が福祉の職場体験のため来園されました。利用者様とのお話やレクリエーション活動、食事の配膳、下膳などの体験をしていただきました。初めは生徒さんも緊張した面持ちでしたが、次第に慣れて会話も弾んでいました。また、利用者の皆さんも若いパワーをもらい嬉しそうでした。今回の体験をきっかけとして、福祉関係の仕事が将来の選択肢のひとつになってくれると嬉しいですね。



第二仁生園

第二仁生園夏祭りの

七月二十七日(土) 夕方の開催時間に降り出した豪雨で急きよ多目的ホールでの開催になりました。室内開催となつてしまいましたが、大勢のボランティアの皆さんが会場を盛り上げてくださりました。ご家族の皆様にもご理解とご協力を頂き有難うございました。

協力いただいたボランティアの皆様

- ・ 太鼓 甲州八ヶ嶺太鼓様
- ・ フラダンス ハイビスカス様
- ・ よさこい 甲斐の国小粋様
- ・ 屋台 北杜高校の生徒の皆さん

若松様ご夫妻



たくさんのご寄付を頂きました

千葉県白井市特産の

梨を頂きました

令和六年八月二十八日、湯浅四郎様より、今年も白井市産の梨を頂きました。利用者様も「美味しいね」とたくさん召し上がっていました。長年に渡るお心遣いに感謝申し上げます。

大根と白菜の

ご寄付を頂きました

令和六年三月四日、高橋勝彦様から大根を、鈴木一雄様から白菜のご寄付を頂きました。みんなで美味しく頂きました。坂本様、鈴木様ありがとうございます。



寄贈 大根：高橋 勝彦 様
白菜：鈴木 一雄 様

サラシのご寄付を頂きました

令和六年八月十六日坂本仁様より、サラシのご寄付を頂きました。利用者様のために使用させていただきます。ありがとうございます。



寄贈 坂本 仁 様



タオルと石けんのご寄付を頂きました

令和六年七月二日、北杜市長坂町地区の民生委員児童協議会の皆様より、タオルと石けんのご寄付をいただきました。利用者様のために使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。



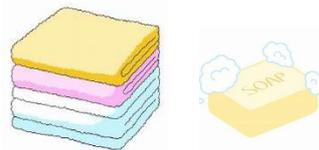
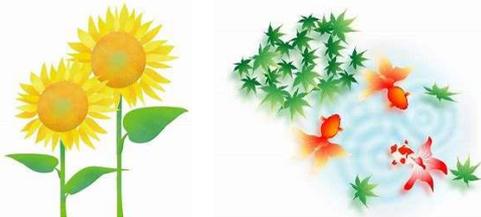
寄贈 北杜市長坂町地区
民生児童委員協議会 様

お心遣いをいただき、心から感謝申し上げます

(令和6年5月16日～令和6年8月20日)

【物品のご寄附】 (順不同)

- ・名倉 岳雄 様
- ・坂本 一美 様
- ・中山 幸子 様



愛寿会のサービスへのご意見・ご要望等がございましたら左記までご連絡ください。
仁生園 電話 0551(32)3340
第二仁生園 電話 0551(32)8270

来園の皆様へのお願い

新型コロナウイルス等への感染拡大防止対策をしています。ご不便をおかけ致しますが、ご理解を頂き、厳守していただく様、お願い申し上げます。

- ◆正面玄関を施錠しております。御用の方はインターホンにて、ご用件をお伝えください。
- ◆来園者全員のお名前を伺い、検温をします。
- ◆最少人数でご来園ください。
- ◆体調に少しでも不安がある方は、事前に来園をお控えください。

面会に関するお知らせ

☆正面玄関横にてガラス越しでの面会及び、施設外から「Face Time」を利用した面会に加え、喫茶いこいでのアクリル板越しの面会を再開いたしました。



- ◆電話による事前予約が必要ですが(電話をいただいた日の一週間後から予約を承ります)。
 - ◆来園前の二週間は、ご自宅にて体温を測って下さい。
 - ◆面会時間帯は午前九時半～十一時の間で十五分間です。
 - ◆少人数での面会にご協力ください。
- ☆仁生園では、ご家族様をお持ちのiPad、iPhoneを利用した「テレビ電話形式」の面会が可能ですので活用ください。希望される場合は、ご予約ください。
- ※感染症の状況に依り、急な面会制限をする場合がございます。お電話でお問い合わせいただくか、当法人のホームページにてご案内しておりますので、ご利用ください。

求 人 募 集



社会福祉法人 愛寿会

福祉総合生活支援センター 仁生園

障害者支援施設 第二仁生園

介護保険サービス			
特別養護老人ホーム仁生園  定員 132 名	仁生園ショートステーション  定員 19 名	仁生園デイサービスセンター  定員 25 名	仁生園介護相談センター  定員 100 名
障害福祉サービス			
グループホームやすらぎ・こあらま  定員 9 名 2 ユニット	障害者支援施設第二仁生園  定員 30 名	第二仁生園ショートステーション  定員 3 名	第二仁生園相談支援センター 

【募集内容】

1. 介護職員、生活支援員

特別養護老人ホーム・デイサービス・グループホーム・障害者支援施設

給与 愛寿会の規程による(前歴加算あり、有資格者平均年収 430 万円) 賞与年 2 回・処遇改善

各種社会保険完備 各種手当あり(通勤、住居、扶養、寒冷地、特殊勤務・特殊業務、夜勤勤務他)

月 164 時間勤務 年間休日 120 日 シフト制・ユニホーム貸与・無料 Wi-Fi 接続可・試用期間あり

<シフト内容> ●早番 7:00~16:00 内 1 時間休憩 ●日勤 8:00~17:00 内 1 時間休憩
●夜勤 17:00~9:00 内 4 時間休憩

2. 看護師(正看、准看)

特別養護老人ホーム・デイサービス・グループホーム・障害者支援施設

給与 愛寿会の規程による(前歴加算あり、平均年収 470 万円) 賞与年 2 回・処遇改善

各種社会保険完備 各種手当あり(通勤、住居、扶養、寒冷地、特殊勤務・特殊業務、オンコール他)

月 164 時間勤務 年間休日 120 日 シフト制・ユニホーム貸与・無料 Wi-Fi 接続可・試用期間あり

<シフト内容> ●早番 7:00~16:00 内 1 時間休憩 ●日勤 8:00~17:00 内 1 時間休憩
●遅番 9:00~18:00 内 1 時間休憩

【お電話またはメールにてご相談ください】

連絡先 社会福祉法人 愛寿会 本部事務局 採用担当 統括施設長 竹中まで (平日 8:00~17:00)

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間菅間 1293 番地

TEL:0551-32-3340(代表) FAX:0551-32-3546

URL:<http://www.aijyukai.com>

E-Mail:jinseien@poem.ocn.ne.jp



Facebook



ホームページ



競輪補助事業完了のお知らせ

この度、2024年度の公益財団法人JKAによる競輪の補助を受けて、以下の事業を完了いたしました。本事業の実施により、特別養護老人ホーム26床、ショートステイセンター6床、グループホーム18床の計50床に「眠りSCAN」を導入いたしました。

記

補助事業名	2024年度 福祉機器の整備 補助事業
事業の内容	見守り支援システムの整備
補助金額	7,361,000円
実施場所	山梨県北杜市長坂町小荒間1293番地
完了年月日	令和6年8月26日

ここに事業完了の報告を申し上げますとともにご協力を賜りました関係各位に対しまして、謹んで感謝の意を表します。

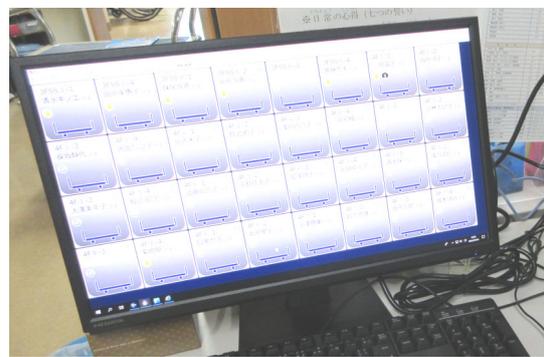
社会福祉法人 愛寿会 理事長 小宮山 光彦

「眠りSCAN」は、利用者の睡眠状態をリアルタイムでモニタリングするシステムで、各ベッドに設置されます。センサーはマットレスの下に取り付けられ、モニタリングデバイスと接続されます。これにより、適切なケアを提供し、体調変化を早期に察知して事故や健康トラブルの予防が可能となります。導入により、利用者の生活の質が向上し、夜間の安心感や快適性が高まります。また、リアルタイムデータの提供によって介護職員の負担が軽減され、巡回や確認作業が効率化されます。さらに、安全性も向上し、迅速な対応が可能となり、事故や健康トラブルのリスクが低減します。

今後も、利用者の生活の質の向上と介護職員の業務効率化を追求し、サービスの充実を図って参ります。



【眠りSCAN設置写真】



【眠りSCAN管理サーバー写真】

整理番号 2024M-147

補助事業名 2024年度 福祉機器の整備 補助事業

補助事業者名 社会福祉法人 愛寿会 特別養護老人ホーム仁生園
仁生園ショートステイセンター
グループホームやすらぎ
グループホームこあらま

1 補助事業の概要

超高齢化社会により介護施設での夜間転倒・転落、体調低下のリスクが増加し、職員の負担も大きくなっています。これを解決し、介護の質の向上や個別ケアを実現するため、見守り支援センサーシステム一式（「眠リスクキャン」パラマウントベッド株式会社）を導入し、リアルタイムでの見守り体制を構築することを目的としました。

2 予想される事業実施効果

1. 安全性と健康管理のさらなる向上

① 予防的ケアの強化

睡眠データの蓄積により、将来的に転倒やその他の健康リスクを予測し、予防的なケアが強化されると期待されます。

② 早期診断の促進

睡眠パターンの異常を早期に検知することで、認知症や睡眠障害などの早期診断が促進される可能性があります。

2. ケアの質のさらなる向上

① パーソナライズドケアの深化

より詳細なデータ分析により、個々の利用者に合わせた高度なパーソナライズドケアが可能になると考えられます。

② ケアプランの精緻化

長期的なデータを基に、利用者の状態に応じたより精緻なケアプランの作成が可能になります。

3. 効率化と業務負担のさらなる軽減

① AI の活用

AI 技術を活用したデータ分析により、異常検知の精度が向上し、スタッフの業務負担がさらに軽減されると予想されます。

② リモートモニタリング

リモートでのモニタリング技術が進化することで、見守りがより効率化される可能性があります。

4. 家族への貢献

① 家族との連携強化

家族が利用者の状態をデータに基づいて把握できるようになることで、家族との連携が強化され、安心感が増すと期待されます。

5. 未来の医療・介護の進化

① テレケアの普及

将来的には、テレケア（遠隔医療・介護）が普及し、都市部と地方間の医療・介護格差が縮小されることが期待されます。

② 教育・トレーニングの高度化

見守りシステムを活用したケアスタッフの教育・トレーニングが高度化し、スキルアップが図られる可能性があります。

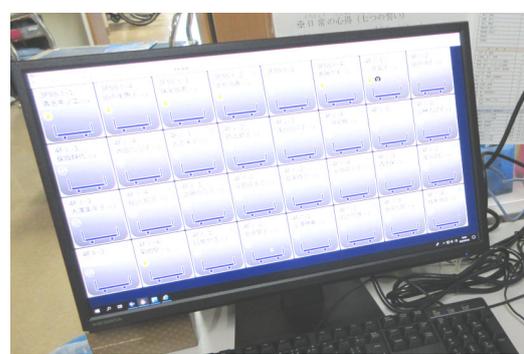
これらの予想される効果により、「眠り SCAN」は今後ますます重要な役割を果たし、利用者の健康・福祉の向上、ケアの質の向上に貢献することが期待されます。

3 本事業により導入した機器

① 見守り支援センサーシステム一式（パラマウントベッド株式会社 眠りスキャン）

<http://aijyukai.com/pdf/download/20080730jigyoukanryou.pdf>

パラマウントベッドの「眠りスキャン」は、ベッド下に設置するセンサーで睡眠状態をリアルタイムにモニタリングします。データは専用ソフトで管理し、Wi-Fi通信が可能です。利用者の自然な睡眠を妨げず、効果的な見守りを実現します。



設置場所

- 特別養護老人ホーム仁生園
- 仁生園ショートステイセンター
- グループホームやすらぎ
- グループこあらま

② 本事業に係る印刷物等

社会福祉法人愛寿会の機関紙 愛寿会だより

(<http://aijyukai.com/pdf/newsletter/AijyuenDayori256.pdf>)



4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 社会福祉法人 愛寿会 (シャカイフクシホウジン アイジュカイ)

住所： 〒408-0031

山梨県北杜市長坂町小荒間1293番地

代表者： 理事長 小宮山 光彦 (コミヤマ ミツヒコ)

担当部署： 法人事務局

担当者名： 事務企画部長 坂本 仁 (サカモト ヒトシ)

電話番号： 0551-32-3340

F A X： 0551-32-3546

E-mail： jinseien@poem.ocn.ne.jp

U R L： <http://aijyukai.com>